

4.3 東京

全国的にみて、この期間における出水率の平均は最も大きく、また、変動が少ない。水力発電よりみれば、最も恵まれた地方といえよう。この地域は、梅雨・台風・秋りん・雷雨等の異なったじょう乱が適宜に交錯して雨をもたらしているからである。

4.4 中部・北陸・関西

これらの地方は、梅雨期の出水率は大きい値を示し、内陸諸山系の効果で多くの雨をもたらすためとみられる。北陸地方は、一般に梅雨量は多くないとされているが、発電所のある山間部では、やはりかなりの雨があることがうかがえる。また、夏季の雷に伴う雨も中部山岳地帯では多いが、これは主に中部電力の地域が多いようである。これらの地域でも、8月中・下旬に渇水があらわれ、台風の影響で8月末から9月にかけて出水率の回復がみられるのは、他の地方と同じである。

4.5 中国

中国地方におけるこの期間の出水率は、全国的にも最も少ない傾向をもっている。とくに、8月中・下旬には著しい低下を示す年が多い。この地域では、梅雨期でも他の地方にくらべ、出水率は低いのが目立つ。夏の雷雨も少なく、秋りん現象もあまり現われない。台風期の河川流量も、四国・九州のように急激な回復は少なく、夏の渇水が最も強く出現しやすい地域といえよう。

4.6 四国・九州

この期間の平均出水率はかなり高い方であって、8月の渇水は他の地方同様にみられるが、その期間と程度はあまり大きい方ではない。また、この地方の特徴は台風による河川流量の急増で、夏の渇水の解消に台風が直接

的に貢献している。

5. あとがき

夏の河川流量は、7月まで梅雨により水量補給がおこなわれ、全国的に豊水となる。この時期に渇水状態はほとんど起らない。また、夏季の渇水状態は、この梅雨が終ることによって確実にあらわれる。そしてこの状態は1カ月も続くことがある。この夏の渇水が急激に回復するのは、台風と秋りんによるものであるが、この河川流量の増加には、秋りんよりも台風の襲来がきわめて大きく作用している。この渇水の解消時期は、台風来襲の時期によってきまり、この渇水解消の度合も台風の影響の仕方と、その来襲の頻度によって定まる。この傾向は全国的にあらわれており、日本における夏の河川流量が、台風により如何に大きく恩恵を受けているかを物語るものである。

台風の来襲による劇的な流量回復の例として、1965年台風9号の来襲をあげたい。台風9号は8月16日から18日にかけて、九州西方海上から対馬海峡を経て日本海へ抜けた。この台風によって、全国的な慈雨に恵まれた。

(第2図参照)。これに伴って、第1図6に示してあるように中部・北陸以西の各電力会社の夏の渇水が解消して了ったのである。

ここに使った日別平均可能発電力と設備出水率の値は、給電連絡会議の故柳井氏から提供されたもので、記して謝意を表す。

参考文献

- 荒川秀俊(1964): 春の河川流量増加の模子, 天気, Vol 11, No. 8.

訂正: 天気 Vol. 13 No. 2 p. 58 に掲載された、日本気象学会第14期選挙告示の記事中、右欄末尾の注を次のように訂正します。

注 通常会員とは、**A 会員**(会費年額1320円を納め天気の配布を受けるもの)、**B 会員**(会費年額2400円を納め天気および集誌の配布を受けるもの)を総称したものである。